

奥出雲町 福祉事務所開所



町民の皆さんの暮らしに深い関わりのある福祉業務をより身近な町の窓口で総合的に行うことができるよう四月二日、奥出雲町役場仁多庁舎裏（別館）に福祉事務所が開設されました。

この日は、岩田町長、島根県健康福祉部の原健康福祉総務課長など関係者が出席し、事務所の開所式が行なわれました。

福祉事務所では、生活保護を中心とした生活支援業務を行います。また、高齢者・障害者福祉の業務と島根県より権限委譲となった児童、母子・寡婦福祉の業務は健康福祉課（国保福祉係）で行い、福祉サービスの充実が図られることとなります。

更なる商工業の発展を

奥出雲町商工会開所式

旧仁多町、旧横田町商工会は任意商工会から昭和三十五年に法制化設立され、以来旧両町の商工業の発展、地域振興に大きく貢献してきました。

この度旧両町の商工会が解散、新しく奥出雲町商工会が発足し四月一日、開所式が行われました。

初代の会長には大谷隆壽さん、副会長には渡部一夫さん、植田良二さんがそれぞれ就任され、旧仁多町商工会館が本所、旧横田町商工会事務所が経営支援センターとなります。

式典では大谷会長と岩田町長の手により両事務所の看板がかけられ、出席者一同で新しい船出を祝いました。

また大谷会長から「多くの方のご尽力により、奥出雲町商工会を設立することができました。組織が大きくなつて良かったと思つてもらえるよう頑張つていきたい」と決意の言葉がありました。

今後新体制のもと、奥出雲町商工業の更なる発展のため、様々な活動が展開されます。



▶ 看板の掲揚を行う岩田町長と大谷会長（上仁多本所・下横田経営支援センター）

(株)舞茸奥出雲 新たなスタート

第三セクター(有)サンマッシュがこの度、(株)舞茸奥出雲として再出発することとなり、四月二日に坂根事業所で発足式が行われました。

(有)サンマッシュは平成元年六月、新しい特産品の開発と地域雇用創出の場として旧横田町が出資比率五十割、(株)ニッポーが二十二・七割、森林組合十八・二割、舞茸生産組合が九・一割を出資して設立され、これまで舞茸、エリンギの生産、出荷を行なってきました。

平成十二、十三年に国の事業導入により、施設の拡充がなされましたが、大手企業の参入による市場価格の下落などから経営が悪化、平成十三年以降、赤字経営が続いていました。

新町発足後、議会等でも議



▲ 挨拶をする岩田町長

論が行われ、平成十八年二月に議会にて調査検討委員会が設置され、以降一年間議論・検討がなされ、経営再建を行うよう継続の要望が出されてきました。

これを受けて町では、七十割が交付税算入される過疎債で四千四百万円の増資を行い、今後は町が全額出資する第三セクターとして、組織の再編と経営基盤の強化を図るとともに、同じきこの類の生産販売に実績のある(有)奥出雲椎茸が、技術経営面でサポートし、現在の赤字借入金を引き継ぎ抜本的な改善を図ることとなりました。

当日は岩田町長、和泉副町長や坂根、蔵屋、竹崎の現場事業所の職員が出席し、今後の経営改善に向け決意を新たにしました。